



規制変更管理表記規則マニュアル

ARIS Risk & Compliance Manager

バージョン 9.7

2014 年 10 月

This document applies to ARIS Risk & Compliance Manager Version 9.7 and to all subsequent releases. Specifications contained herein are subject to change and these changes will be reported in subsequent release notes or new editions.

Copyright © 2010 - 2014 Software AG, Darmstadt, Germany and/or Software AG USA Inc., Reston, VA, USA, and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors.

The name [Software AG](#) and all Software AG product names are either trademarks or registered trademarks of Software AG and/or Software AG USA Inc. and/or its subsidiaries and/or its affiliates and/or their licensors. Other company and product names mentioned herein may be trademarks of their respective owners. Detailed information on trademarks and patents owned by Software AG and/or its subsidiaries is located at <http://documentation.softwareag.com/legal/>.

Use of this software is subject to adherence to Software AG's licensing conditions and terms. These terms are part of the product documentation, located at <http://documentation.softwareag.com/legal/> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).

This software may include portions of third-party products. For third-party copyright notices and license terms, please refer to "License Texts, Copyright Notices and Disclaimers of Third Party Products". This document is part of the product documentation, located at <http://documentation.softwareag.com/legal/> and/or in the root installation directory of the licensed product(s).



目次

1	はじめに.....	1
2	本マニュアルの内容	2
2.1	目的および範囲	2
3	ARIS 表記規則	3
3.1	ユーザーとユーザー グループの作成	3
3.1.1	役割と要員の割り当て	5
3.1.2	役割と用語の関係	6
3.2	規定階層を作成して、規制変更管理データを指定	7
3.3	オブジェクトと関係の非アクティブ化	10



1 はじめに

ARIS のモデルを用いて業務プロセスと業務ファンクションを記録すると、(一貫性、複雑さの軽減、再利用性、評価の可能性、整合性など) さまざまな利点があります。

ただしこれは、ARIS Architect でのモデリングのメソッドおよび機能の規則と表記規則が順守されている場合のみ実行できます。これらのルールに従った場合にのみ、すべてのモデル化されたデータは ARIS Risk & Compliance Manager (ARCM) に転送されて、再利用することができます。



2 本マニュアルの内容

以下の各セクションでは、説明ビュー、モデル タイプ、オブジェクト タイプ、関係タイプと接続線タイプ、および属性の使用に関する標準を説明します。

2.1 目的および範囲

目的: モデリング ガイドラインの仕様設計

本マニュアルに含まれないもの: ユーザー文書

3 ARIS 表記規則

3.1 ユーザーとユーザー グループの作成

ユーザーおよびユーザー グループは、[要員] (OT_PERS) および [役割] (OT_PERS_TYPE) のオブジェクトを使用して ARIS Architect の組織図でモデル化されます。



図 1: ユーザーおよびユーザー グループの構造 (組織図)

上位役割 [階層所有者_3] によって、ARIS Risk & Compliance Manager では下位役割が果たす役割が指定されます。これらの役割は、[汎化結果である] 接続線を使用して接続されます。「階層所有者グループ 3.01」は「階層所有者_3」の汎化の結果です。作成されるグループの役割とレベルは上位役割名により定義されます。<役割>_<レベル>、つまり、階層所有者_3 役割: 階層所有者、レベル: 3 (またはオブジェクト固有) で定義されます。ユーザー グループは、上位役割 (階層所有者_3) に対して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されません。

以下がさまざまなレベルに適用されます。

- レベル 1: クライアント汎用
つまり、権限が複数クライアントに割り当てられます。
- レベル 2: クライアント固有
つまり、権限が特定のクライアントに割り当てられます。
- レベル 3: オブジェクト固有
つまり、方針、リスク、または統制などの特定のオブジェクトに権限が割り当てられます。

上記の例では、[階層所有者グループ 3.01] ユーザー グループは、[階層所有者] の役割およびレベル「3」(オブジェクト固有の権限) を使用して ARIS Risk & Compliance Manager で生成されます。また、ユーザー ID「HO_01」と「HO_02」のユーザーが生成されます。



役割名 (ARCM) と役割 (ABA) の対応一覧

次の割り当ては、ARIS Risk & Compliance Manager での役割と ARIS Architect で使用される名前に適用されます。その他の役割については、他の表記規則マニュアルで説明しています。

役割 (ARCM)	役割 (ABA)	注意
roles.hierarchyauditor	階層監査人	レベル 1 および 2
roles.hierarchymanager	階層担当者	レベル 1 および 2
roles.hierarchyowner	階層所有者	レベル 3 のみ



3.1.1 役割と要員の割り当て

役割 (ABA) とユーザー グループ (ARCM) の割り当て

次の割り当てを [役割 (ユーザー グループ)] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	ユーザー グループ名は最大 250 文字に制限されています。
説明/定義	AT_DESC	description	-	
役割	-	role	○	[役割] と [役割レベル] の値は、上記のとおり指定されます。
役割レベル	-	rolelevel	○	
ユーザー	-	groupmembers	-	[ユーザー] は要員と役割間の [実行する] 接続線によって指定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

要員 (ABA) とユーザー (ARCM) の割り当て

次の割り当ては [要員 (ユーザー)] オブジェクトに適用できます。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
ログイン	AT_LOGIN	Userid	○	ユーザーのユーザー ID は最大 250 文字に制限されています。
名	AT_FIRST_NAME	firstname	○	
姓	AT_LAST_NAME	lastname	○	
		name	-	姓と名の組み合わせ



ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
説明/定義	AT_DESC	description	-	
電子メール アドレス	AT_EMAIL_ADDR	email	○	
電話番号	AT_PHONE_NUM	phone	-	
		clients	-	[クライアント] フィールドは、データのインポート先のクライアントによって指定されます。
		substitutes	-	[代理] フィールドは、手動でのみ設定されます。

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

3.1.2 役割と用語の関係

階層所有者グループ (OT_PERS_TYPE) と規定 (OT_TECH_TRM) 間の責任を割り当てるには、ファンクション割当図 (MT_FUNC_ALLOC_DGM) を次の接続線とあわせて使用します。

オブジェクト	接続線	オブジェクト	注釈
役割	所有者である	用語	(階層所有者の役割を持つ) ユーザー グループを規定に割当てます。



3.2 規定階層を作成して、規制変更管理データを指定

規定階層は、[用語] オブジェクト (OT_TECH_TRM) を使用して、ARIS Architect の用語モデルでモデル化されます。次の割り当ては、一般的に [用語] オブジェクトに適用できません。

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
名前	AT_NAME	name	○	
		isroot		最上位階層要素に対してのみ「true」
概要説明	AT_SHORT_DESC	hnumber		
		type		規定階層 (値 2)
説明/定義	AT_DESC	description		
		status	○	アクティブの場合、ステータスは「true」
サインオフ関連	AT_AAM_SIGN_OFF_RELEVANT	signoff	○	規制変更管理には関係しない
モデル リンク	AT_AAM_MOD_LINK	modellink		
		modelguid		用語のオカレンスを含むモデルの GUID。最初に利用できる用語モデルが選択されます。
		model_name		モデル名 (上記参照)
オブジェクト リンク	AT_AAM_OBJ_LINK	objectlink		
オブジェクトの GUID		objectguid		



ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
		children		下位階層要素
		so_owner		関連するサインオフ所有者グループ
		owner_group		関連する階層所有者グループ
		tester		この階層タイプには関係なし

*M 列では属性が必須項目であるかどうかを示されます。

規制変更管理を使用するには、[規制変更管理] グループで次の属性も指定できます：

ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
評価関係	AT_REVIEW_RELEVANT	reviewRelevant	○	規定に評価に関係するものとしてマークを付けます。これによって、ここで設定する属性と、「階層所有者」の役割を持つ 1 つのグループの割り当てが必須になります。
評価クティビティ	AT_REVIEW_ACTIVITY	activities	(○)	評価時に実行されるアクティビティを説明します。規定に評価関係としてマークが付けられた場合、必須フィールドになります。



ABA 属性	API 名	ARCM 属性	M*	注意
評価の頻度	AT_REVIEW_FREQUENCY	frequency	(○)	<p>評価を実行するインターバルが示されます。使用できるオプション:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 単発 ▪ 日次 ▪ 週次 ▪ 月次 ▪ 四半期 ▪ 半期 ▪ 年次 ▪ 隔年 ▪ 場合に応じる <p>規定に評価関係としてマークが付けられた場合、必須フィールドになります。</p>
イベント駆動の評価許可	AT_EVENT_DRIVEN_REVIEW_ALLOWED	event_driven_allowed	(○)	<p>規定にアドホック評価が許可されるかどうか出力されます。規定に評価関係としてマークが付けられた場合、必須フィールドになります。</p>
評価実行期限 (単位: 日)	AT_REVIEW_EXECUTION_TIME_LIMIT	duration	(○)	<p>階層所有者が評価を処理するために使用できる日数出力されます。規定に評価関係としてマークが付けられた場合、必須フィールドになります。</p>
評価の開始日	AT_REVIEW_START_DATE	startdate	(○)	<p>評価を生成する最初の日付出力されます。規定に評価関係としてマークが付けられた場合、必須フィールドになります。</p>
評価の終了日	AT_REVIEW_END_DATE	enddate		<p>評価を生成する最後の日付出力されます。</p>

*M 列では属性が必須項目であるかどうか示されます。



3.3 オブジェクトと関係の非アクティブ化

ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は、変更を追跡できるようにするためバージョン管理されます。そのため、ARIS Risk & Compliance Manager のオブジェクトと関係は非アクティブにされ、削除されません。つまり、対応するデータ アイテムは非アクティブになり、データベースからは削除されません。

インポートによって ARIS Risk & Compliance Manager でオブジェクト/関係を非アクティブにするには、対応するように ARIS Architect でマークする必要があります。これを実行するには、[非アクティブ] (AT_DEACT) 属性を使用します。この属性はオブジェクトと接続線の両方に設定できます。属性が設定されると、オブジェクトまたは接続線は次にインポートを実行する際に非アクティブになります。

もちろん、これが実行されるのは、ARIS Architect エクスポート ファイルにオブジェクトと関係が含まれている場合のみです。ARIS Risk & Compliance Manager へのインポートが正常に実行されたら、ARIS Architect でオブジェクト/接続線を削除できます。インポートが実行される前にオブジェクト/接続線が ARIS Architect で削除された場合は、これらを ARIS Risk & Compliance Manager で手動で非アクティブにできます。